

2018(平成 30)年度 事業計画書

ーみなとみらいキャンパス開設とキャンパス新総合計画の推進に向けてー

| | ページ |
|-------------------|-----|
| I. はじめに _____ | 1 |
| II. 重点事業の概要 _____ | 1 |
| 1. 大学 _____ | 2 |
| 2. 附属学校 _____ | 4 |
| 3. 基盤整備 _____ | 5 |

I. はじめに

2018年度は、本学園のみなとみらいキャンパス計画が大きく進展する年です。1928年（昭和3年）に桜木町に開設した横浜学院から始まり、創立90周年を迎える本学園が、新たなキャンパスをみなとみらい地区に設置するこの計画は、本学園の「100年の計」と言うべき大きな計画です。2018年度はその初年度となります。

さらに、みなとみらいキャンパスのみならず、キャンパス全体の整備計画を見直し、新たなキャンパス総合計画を策定します。このような、多額の事業費を伴う整備計画を確実に実行し、将来に向けて安定的な経営を行うため、併せて中長期財政計画（2018-2028）を策定します。

2018年度は、みなとみらいキャンパス計画の推進とともに、学長の下、検討を進めている新学部構想を具体化させ、創立100周年、そしてその先を見据え、競争力を強化し、魅力ある学園づくりを進めます。

II. 重点事業の概要

2018年度は、将来構想の推進を中心に、次の4点を重点項目とし、その実現に向けた諸施策を実施します。

○ 将来構想第二期中期実行計画の推進

2016年度から2021年度までの6か年の将来構想第二期中期実行計画に基づき、新学部及びみなとみらいキャンパス計画の推進を重点施策とし、引き続き将来構想を推進します。

○ 国際系新学部構想の実現

本学のグローバル化の推進を踏まえ、「横浜」に設立された本学の歴史及び優秀な学生の確保等の観点から、日本の文化と歴史に深い理解をもって国際交流を進めるグローバルな人材を養成する国際文化日本学部（仮称）の構想を進め、2020年度開設に向け、文部科学省への設置に係る手続など具体的な検討を進めます。

○ みなとみらいキャンパス計画の推進

本学園の競争力を強化し、新学部をはじめとするグローバル系学部による教育、研究を推進するため、2021年度の開設を予定している、みなとみらいキャンパス計画を推進し、建設工事に着工します。

○ 将来構想を推進するための財政基盤の強化

新学部及びみなとみらいキャンパス計画をはじめとし、将来構想第二期中期実行計画で掲げた諸施策を実現するため、財政基盤の強化を目指します。新学部及びみなとみらいキャンパスをはじめとする施設整備に伴う資金計画を踏まえ、「中長期財政計画（2018-2028）」を策定し、将来にわたり安定的な法人運営を目指します。

1. 大 学

2018年度の最重点事業を以下の2点とし、「知の拠点」にふさわしい教育組織や教育研究環境の構築を推進します。そのために、学長のリーダーシップの下、教学ガバナンスを強化し、グローバル化とダイバーシティの推進を基軸に据え、(1)から(3)に掲げる教育研究体制の整備を進めます。

◎ 新学部の設置と魅力的な教育組織の構築

国際文化日本学部（仮称）の2020年4月開設を目指し、設置に係る手続を進めます。また、みなとみらいキャンパスへのグローバル系の国際文化日本学部（仮称）、外国語学部及び経営学部の移転と、教育組織の横浜への集約に向けた準備を進め、全学共通教養教育をはじめとする教育実施体制の整備と、理学部・工学部の再編に取り組み、他の既存組織についても教育組織や教員組織の再編等を検討します。さらに、社会的要請に応える大学院改革を推進し、2019年4月の工学研究科専攻再編の設置届出の手続を行います。

◎ みなとみらいキャンパス計画の推進と教育研究環境の向上

みなとみらいキャンパスの2021年4月開設に向け、新たな時代にふさわしいキャンパス計画を策定します。また、みなとみらいキャンパスの開設にともない、教育組織の移転や体育・スポーツ施設の整備を進め、キャンパス整備計画の見直しを図ります。

計画の検討にあたっては、教育と研究の交流を促し社会に開かれた知的空間としての図書館の機能強化を図り、「知の拠点」にふさわしい大学づくりを進めます。また、地域社会との協力・連携体制を構築し、研究成果及び知的財産を社会に還元します。さらに、神奈川県中小企業家同友会等との包括協定締結に引き続き、自治体や企業団体等と協定を結ぶとともに、地域社会との連携の拠点となる地域社会連携センター（仮称）の設置を準備します。

(1) 教育の質の向上と多様な教育の展開

〔予算：4億2,194万円〕

高大接続をはじめ、初年次導入教育など教養教育と専門教育との有機的な連関にもとづく、柔軟で魅力的な教育課程の改革に取り組みます。また、全学共通教養教育の実施に向けた検討を開始し、教職課程の再課程認定の手続を進めるとともに、教職課程をはじめとする資格教育課程の充実のため資格教育課程センターを開設します。

同時に、学生が自ら主体的・能動的に考え課題に取り組む学際的・国際的なプログラムを拡充し、ゼミナール等の少人数教育や体験型学習等と組み合わせアクティブ・ラーニングを促進します。また、学生の課内・課外活動を支援し、良識ある市民の育成と社会性の涵養に力を入れ、多様な人々が共生し人間的な成長を促しあうコミュニティの醸成に努めます。その実現のために、ダイバーシティ推進委員会を設置し、啓発活動と情報発信に取り組みます。

さらに、IRによる教育情報やICT及び学修ポートフォリオ等を活用し、学修成果の可視化に向けた取り組みを進めます。

(2) 特色ある研究と教育の推進

〔予算：1億5,049万円〕

国内外各地から集う多様な学生・教員の交流と国際的な研究成果の発信を推進します。

「海とみなど」の地理的・歴史的条件を共有する国内外の大学間ネットワークの構築へ向け、神戸学院大学に続き、国内外の大学と協定を締結し、各大学の個性と多様性を活かした文理融合型の特色ある研究・教育プログラムの開発や単位互換等の多様な交流を進めます。また、これらの取り組みを基に「私立大学研究ブランディング事業」に申請します。さらに、2017年度に開設した上海交流センターに続く海外活動拠点の設置に向けた検討を開始します。

国内外の学生たちが共同生活を通じて国際感覚を育む新国際学生寮（仮称）の建設を進めるとともに、留学生の日本語教育強化を担う日本語教育センターの設置を目指し、関係諸規程の制定に着手します。また、日本語・日本文化プログラムのほか、外国語による授業科目の拡充や国内外で国際性を身につける多様な教育プログラムの開発に取り組み、学生の意欲や能力を高める教育を進めます。前年度に引き続き、国内外の学生が共に主体的・能動的に取り組み、多様で多彩な文化に触れられる「インターナショナルウィーク（横浜キャンパス「スペイン」・湘南ひらつかキャンパス「マレーシア」）」を開催します。

若手研究者を育成し女性研究者を支援する制度と体制を確立し、国際的な活躍を応援します。また、大学院生や学生の教育と研究支援を目的とする海外の優れた研究者の招へい制度等を新設するほか、本学教員による世界的水準の学術研究を広く社会に発信するため、英語版広報誌「PROUD BLUE」を活用するなど、広く世界に発信する体制を強化します。

(3) キャリア形成と学生支援の強化

〔予算：8億4,186万円〕

学生の成長を支援する体制を一層強化し、就職支援強化とキャリア教育の改革を進めます。また、宮陵会をはじめとするOB・OGとの連携を強化し、U・Iターンをはじめ、学生一人ひとりの資質や能力、希望に応じた就職支援等に取り組みます。さらに、地域社会と連携したキャリア教育やインターンシップ等の実施に取り組みます。

給費生制度や2017年度に導入した予約型奨学金制度、各種奨学金等の充実に向け、引き続き検討を進めます。また、障がい等を理由に差別や不利益が生まれないよう教育環境の整備を進め、様々な配慮を求める学生のニーズに対応して的確なサポートを行い、学生相談や学習相談等の体制を整備し、多様な学生への支援に努めます。

2017年度のスポーツセンター発足及び重点強化部の指定に伴い、2019年度入学試験から新たな入学試験制度を導入し、学修とスポーツに取り組む学生への支援を一層強化します。

2. 附属学校

近年、附属学校を取り巻く環境は、私立学校に加え、公立の中高一貫校など、他校との競争が激化しており、こうした中、新学習指導要領、高大接続改革、グローバル教育、ICT教育の進展等への取り組みは重要な要素となっています。このようなことから、2018年度は次に掲げる3点を重点的に取り組みます。

(1) 「主体的に考え、判断し、行動できる人」の育成

〔予算：2,504万円〕

自らの考えを適切に表現できる生徒の育成に重点を置き、各種コンクールなど外部の様々な活動に主体的に参加できるよう情報提供に努めるとともに、このような活動や経験を通じて生徒自身が将来のキャリアを考えることができるよう、進路教育へとつなぎます。

2018年度は中学3年生に対しタブレットPCの活用による教育を実施し、ICT教育を充実します。

グローバル教育の充実については、イングリッシュラウンジの活用や、中学1年生から3年生までを対象とする英語合宿（BEC）などを実施するほか、英語による課題解決型学習（エンパワーメントプログラム）の開発に取り組みます。また、教員による国内、海外の大学や教育機関の視察研修等を通じ、グローバル教育の取り組みを進めます。

(2) 確かな学力に基づく進路指導の充実

生徒の希望に沿う進学選択、また進学実績を確保していくため、2020年度からの大学入試制度改革を念頭に、教科指導方法とあわせて、放課後、長期休暇期間等における講習内容の見直しを進めるとともに、2018年度よりGTEC（スコア型英語4技能検定）を導入します。

さらに、大学進学の見据えたキャリア教育においては、中高6か年を通じた指導計画と、中学生を対象とした学習ポートフォリオ「学修の記録」に加えて、キャリア学習用「進路ノート」（仮称）の作成に向けた検討を行います。

(3) 創造性と豊かな人間性の涵養

豊かな人間性を涵養する場として学級活動、生徒会活動、部活動への取り組みを充実させるとともに、地域と連携したボランティア活動、いのちや思いやりをテーマに、福祉体験授業や医療現場でのドクターやナース体験学習を実施します。また、生徒の個性や創造性を伸ばさせるため、「体育大会」「くすのき祭」「海外研修」等の充実を図ります。

3. 基盤整備

◎ 将来構想を推進するための経営基盤の強化

学校法人神奈川大学将来構想の実現に向け、第二期中期実行計画に基づき、2028年の創立100周年に向け、競争力を強化し、魅力ある学園を構築します。将来構想を実現するため、「中長期財政計画（2018-2028）」に基づき、将来にわたり安定的な経営基盤を強化します。

（1）財政基盤の強化

ア 中長期財政計画の策定及び推進

みなとみらいキャンパス計画の推進に伴い、横浜キャンパスマスタープランを見直し、横浜・湘南ひらつか・中山の3キャンパスにおける施設整備計画を踏まえ、資金計画と合わせ、「中長期財政計画（2018-2028）」を策定し、将来構想を実現する安定的な財政基盤を目指します。

イ 事業法人の活用

本法人出資の事業会社として、2017年度に「株式会社 KU パートナーズ」を設立し、中山キャンパスの施設総合管理業務等の業務委託を開始しました。2018年度も事業会社の活用により業務の効率化及び経費の削減を図るとともに、事業会社においては本学からの受託事業の拡大による収益化を目指します。

（2）魅力あるキャンパスの構築

ア みなとみらいキャンパス計画の推進

2018年度は、みなとみらいキャンパスの2021年度開設に向け、実施設計を進め、施工者の選定等を経て2018年6月（予定）に建設工事に着工します。

イ キャンパス新総合計画の策定・推進

横浜キャンパスについては、2018年度中に新国際学生寮（仮称）及び30号館（宮陵会館（仮称））の竣工を目指すとともに、横浜キャンパスマスタープランを見直し、図書館の改修、理学部の横浜キャンパス移転、体育・スポーツ施設の充実等を踏まえた全キャンパスの施設整備計画となるキャンパス新総合計画を策定し、推進します。

（3）将来構想を実現する組織及び人事制度の強化

ア 新学部設置等を踏まえた教員組織の再編

大学の重点事業である、「新学部の設置と魅力的な教育組織の構築」に基づき、国際文化日本学部（仮称）の設置等に対応した、教員組織の再編等を検討します。

また、全学的な課題に対応する機関であるセンター等に所属する新たな教員任用制度の導入に向け、規程の整備を進めます。

イ 附属学校管理運営体制の強化

中等教育におけるグローバル化、ICT 教育の進展等への取組など、多くの課題に対し、より組織的、機能的な学校運営が行われるよう 2018 年 4 月から部長を管理職と位置付け、管理運営体制を強化します。

ウ 事務職員人事制度・事務組織改革

みなとみらいキャンパスを見据えた事務組織全体の在り方等を踏まえ、事務組織の強化と事務職員の資質向上を目指し、事務組織、人事政策基本方針の見直しについて検討します。

また、将来構想及び学園のグローバル化の推進を支える職員の育成に向けて、海外の大学への派遣、外部団体への研修生の派遣、海外研修プログラム等の充実を図るとともに、職員の高度化・専門化を図ります。

(4) 戦略的広報活動の推進

〔予算：1 億 8,304 万円〕

国際文化日本学部（仮称）の設置及びみなとみらいキャンパス開設をはじめとし、将来構想第二期中期実行計画の推進状況等を積極的に社会へ発信するとともに、SNS の活用やニュースパブリシティを通じたブランド力強化を推進します。また、学生募集広報については、教育産業等の外部からの意見を参考にしながら、新学部、みなとみらいキャンパス開設を中心に据えた広報計画を策定し、広報活動を展開していきます。

(5) 創立 90 周年記念事業の実施

〔予算：4,756 万円〕

2018 年度に創立 90 周年を迎えることに伴い、創立 90 周年を記念する各種行事の開催、創立 100 周年までを見据え、みなとみらいキャンパス開設等に係る募金事業等の記念事業を実施します。

(6) 社会、地域及び校友との連携

〔予算：2 億 5,003 万円〕

ア 地元自治体・企業等との連携

2017 年度に設置した地域連携推進室を中心に、地元神奈川県・横浜市・平塚市をはじめ県内自治体や企業等との連携を強化します。また、各キャンパス周辺の子供たちに向けた「スポーツ教室」「一日大学生」等を開催します。

横浜キャンパスでは大学都市パートナーシップ協議会の活動を中心に横浜市との連携を進めると共に「神奈川区との連携推進プロジェクト」に基づく各種事業を推進します。湘南ひらつかキャンパスでは、「平塚市・神奈川大学交流事業推進協議会」等の活動を通じた自治体との連携のほか、「湘南ひらつか七夕まつり」等における本学学生と地元企業の連携を支援します。

イ 生涯学習の推進

横浜・湘南ひらつかキャンパス、みなとみらいエクステンションセンターにおいて、社会の要請に適った講座、講演会等を年間を通じて開催し、地域、社会の生涯学習を推進します。

ウ 高校生等向けイベントの実施

「神奈川大学全国高校生俳句大賞」、「神奈川大学全国高校生理科・科学論文大賞」、「SCIENCE LABORATORY」、「高校生向け公開講座」等を引き続き企画・実施します。

エ 校友との連携

2018年度は卒業生の交流拠点となる30号館（宮陵会館（仮称））の竣工を予定しており、在学生及び卒業生並びに在学生父母、退職教職員など多くの校友との情報共有や意見交換の促進に努め、様々な校友支援の取り組みを発展させていきます。また、継続した追跡調査により卒業生情報の精度を高め、ホームページ「卒業生ひろば」や創立90周年を記念するホームカミングデー等の機会を通じて、帰属意識の醸成に寄与する施策を展開します。

〔学校法人神奈川大学将来構想〕

策定した将来構想の「学園の理念」、「学園の基本方針」、「経営の方針」は次のとおりです。

学園の理念

○建学の精神 「質実剛健・積極進取・中正堅実」

○使命（ミッション）

「私たちは、建学の精神のもと、時代と社会の課題や使命を地球的視野から深く自覚すると共に、真理を希求する姿勢を持ち続け、自律の精神と共生の視点から主体的に新たな価値を創造する人材を育成し、未来社会の発展と安定に寄与します。」

○100周年に向けた将来像（ビジョン）

「海により開かれ、世界との接点となった横浜に生まれた本学園は、多様な価値観の共存する時代に、人の交流と文化の融和、知識と実践の循環、教育と研究の融合による21世紀における「真の実学」を実現し、地域社会そして地球規模の課題を解決する、世界を惹きつけ、世界に発信する学園を目指します。」

学園の基本方針

- | | |
|------------|---------------------------------------|
| <教育方針> | 幅広い教養と人間形成を基礎にした「真の実学」を追求します。 |
| <人材輩出方針> | 自ら成長し、他者と協力しながら社会で生き生きと活躍できる人材を育成します。 |
| <入学生受入方針> | 学園の理念に共感し、学び、成長する意欲の高い人材を受け入れます。 |
| <研究活動方針> | 未来社会の発展と安定に貢献する研究を推進し、研究成果を教育に活かします。 |
| <社会貢献活動方針> | 学園の資源を活用し、地域・日本・世界に貢献します。 |

経営の方針

建学の精神、使命（ミッション）に基づき将来像（ビジョン）を実現します。

- ・ 社会の変化に対応し、総合性を生かした学園資源の選択と集中を行います。
- ・ 教学の主体性を尊重し、法人のガバナンスを強化します。
- ・ 組織の強化を目指すマネジメントを推進します。
- ・ 財源の多元化を推進し、将来に向け安定的な経営基盤を確立します。

KU 学校法人 神奈川大学

〒221-8686 神奈川県横浜市神奈川区六角橋 3-27-1
TEL 045-481-5661 (代表)